

令和5年度 第1回学校運営協議会長情報交換会

日時 令和5年7月5日(水) 9時30分～12時

場所 二宮町町民センター2Aクラブ室

出席者 出席 11名

- ・二宮小学校 片岡 学校運営協議会長、山内 地域学校協働活動推進員、和田校長
- ・一色小学校 渡邊 学校運営協議会長、橋本 地域学校協働活動推進員、中西校長
- ・山西小学校 宮戸 学校運営協議会長、井上 地域学校協働活動推進員、北川校長
- ・二宮中学校 加山 学校運営協議会長、石井 地域学校協働活動推進員、伊庭校長
- ・二宮西中学校 泉 学校運営協議会長・地域学校協働活動推進員、藤田校長

事務局 7名

教育総務課

森教育長、椎野教育部長、倉重教育指導担当課長、高谷課長代理(指導主事)、
安藤指導班長(指導主事)、西山主任主事

生涯学習課

山下課長

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・資料1 令和5年度 第1回 二宮町学校運営協議会長情報交換会 出席者名簿
- ・資料2 令和5年度二宮町学校運営協議会長情報交換会 概要
- ・資料3 令和5年度 小中学校 学校運営協議会開催日程(予定)
- ・資料4 にのみや学園通信 第1号～第3号
- ・参考資料1 令和4年度 第3回学校運営協議会長情報交換会 会議録
- ・参考資料2 給食だより7月号
- ・資料番号なし 令和5年度にのみや学園の主な取り組み

(当日配布)

- ・各学校からの資料

議事要旨

1 開 会	
2 教育長挨拶	
<ul style="list-style-type: none"> ・にのみや学園が4月にスタートした。学校運営協議会の皆さんの支えによって成り立っているので、学校の工夫、学校同士の工夫、無理のない範囲で進めていただきたい。 ・体育祭、修学旅行は順調に進んでいると聞いている。 ・子どもたちにとって楽しいにのみや学園となるようご協力いただきたい。 	
3 自己紹介	
4 コミュニティ・スクールについて	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会長情報交換会の開催日程等について（資料2） →第2回目は日程の変更の可能性はある。 ・各校の学校運営協議会の開催日程（予定）について（資料3） ・令和4年度第3回会議録の確認（参考資料1） →この学校運営協議会長情報交換会を、にのみや学園の学校運営協議会として情報共有の場とする。 →他校の学校運営協議会へオブザーバーとして参加可能。参加の場合は事務局へ連絡する。 →地域人材及び学校ニーズの把握は、引き続き取り組んでいただき、情報共有にご協力いただきたい。 ・にのみや学園の取り組みについて（資料4、資料番号なし資料） ・地場産デーについて（参考資料2）
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産デーは面白い取り組み。6月30日にあった神奈川県のコミュニティ・スクールに関する研修会での竹原先生の話から思ったこととして、例えば、地場産の物を使いますだけではなく、子どもたちが栽培しているところへ行き、体験したり、話を聞いたりして、最終的に給食に出ると、ストーリーがあつて子どもたちの理解や活動に対する考えが深まるのではないかと。竹原先生は、単発でもいいが、可能なら1年を通して体験ができると、自分が将来こういう仕事をしたいという学びの場になるとか、将来的に二宮町での地場産業を支える存在になってくれるなどといった話があつた。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年3学期ですが、山西小学校で原木椎茸の農家を訪ねて話を聞き、その原木椎茸を給食で提供したり、原木を借りて栽培をしたりする経験をした。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・二宮小学校でも畑を作っていて、それを環境整備部会でフォローしているが、各学年のカリキュラムとしてやっており、担当の先生が土を入れ替えるなど、もう少し質の良いものにしたいという話があつた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「校長会」と「にのみや学園連絡会」は別のものなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年7月から小中一貫教育を推進していくために、校長会と同じ時間帯であるが、

	別の枠を設けて協議していくことになった。
5 情報交換	
二宮西中	<ul style="list-style-type: none"> ・9月16日14時～18時30分「まつり@西中」を西中のグラウンドで実施予定。地域活性化と小中の顔合わせの意味あいがあり、対象は、にのみや学園の児童生徒とその保護者、二宮町在住の方。神輿を中学生と担ぐ。西中学区の地区の屋台出店、西サポからも協力いただく。西中の生徒からダンスなどの出し物を募集している。キャンプファイヤーを計画している。雨天の場合は翌日順延。その翌日の順延はなし。 ・主催は二宮西中学校運営協議会、PTA 互助会の保険を適用しようと思っているので、各学校のPTAが共催。PTAから寄付をいただくようになっているので、一色小学校、山西小学校は協賛の予定。 ・令和6年度は、生徒主体で内容を決め、学校がサポートする形で行いたいと考えている。 ・ポスターが近々各学校につく頃なので、ご紹介いただきたい。
二宮小	<p>①校外安全部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAの課題を把握し、行政に伝えて解決のために進めている。 ・児童生徒安全対策協議会の情報も共有しながら、保護者の悩みに寄り添いながら解決したいと思っている。 <p>②学びふれあい部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズと合わずスムーズにいかないこともあるが、放課後子ども教室では、子どもからの質問を受け付けて地域の専門家に答えてもらうコーナーを設けている。 <p>③環境整備部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑の草取り、大掃除を手伝っている。土を入れ替えるなどして、いい教育ができるように推進していこうとしている。 <p>④その他部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことを言えない人がいるので、意見を集めて解決していく。 <p>(その他の取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型小中一貫教育校設置研究会で喫緊の課題について意見収集することになったので、意見があれば提案してほしいと伝えた。しかし、小学校と中学校の地区が同じなのに、それぞれの学校で投げかけたら非効率のため、連携したいと思っている。 ・登校については、地区によって、距離の差によって温度差がある。どうやって地区と情報を共有化していくか、また子どもが安全に来られるかを考えながら課題共有のために10地区との確認会などをしたい。また学校運営協議会への理解が浅いと感じているので、地区の方に興味をもって参画していただけるようにしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・150周年記念誌や記念品、横断幕を作っている。 ・150周年に関連して、生涯学習課が二宮小150周年の現在、過去、未来という内容の展示を企画している。また商工会のふれあいまつりを二宮小学校で実施予定。それと連動してPTAのイベントも企画されている。 ・放課後子ども教室について（当日配付資料） 異年齢交流として小中をつなぎ、全12回のうち、夏休み期間に6回実施し、中学生にも参加してもらおう。質問コーナーはスキルを持った大人の方に答えてもらおう。夏休み中は、さらに横にもつながりたいので、8月17日にラディアンで3小合同の放課後子ども教室を実施予定。プログラミング体験や川柳、ピアノを弾くなど、膨らましていこうと思う。午前は小学1、3、5年生、午後は小学2、4、6年生、それぞれに二宮中、西中の生徒さんもサポーターとして来てもらうことを想定して進めている。にのみや学園スタートの年だということを、子どもたちに体験を通して感じてもらいたいと思い、企画を考えている。
一色小	<ul style="list-style-type: none"> ・部会は3つ。校外安全部会、学び交流部会、学校環境部会 ・課題について（当日配付資料） 課題1：施策発案者と実施者の兼務による制限 <ul style="list-style-type: none"> ・施策発案者が実施者を兼務することで、私はここまでしかできないから週1ぐらいかなと考えてしまう。そういった時間制限がある。 ・学校運営協議会メンバーが変わり、それによって本来である活動が変わっていくことは避けないといけない。また持続可能性ということで考えると、資料右下の図のコミュニティ・スクール、学校運営協議会、間に推進員の方、右に地域のグループがいて、正式にはこれだが、例えば学校運営協議会のメンバーが右の地域の何かの団体として活動することはいいが、本来は区別すること、意識しながらやるという意識改革が重要だと思う。今、実際やることは変わらないが、この構造を意識することによる意識改革が必要。 課題2：既存の活動との位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・校外安全部会で見守りをしているが、PTAでも旗振りしているので、住み分けや位置づけを整理する必要がある。 ・「学び場」は、子どもとしては続けてほしいという希望だが、他に放課後子ども教室や学童保育もあるので、整理する必要がある。 課題3：二宮町小中一貫教育との整合性 <ul style="list-style-type: none"> ・にのみや学園として最終的に5校が1校になっていく過程において、今別々に活動しているコミュニティ・スクールをどうやって整合性を合わせていくかという課題がある。議論はおそらく二つあり、一つは、どういうやって共通性を持たせるか。もう一つは、二宮小学校と山西小学校、一色小学校は地域が違う。先ほどの片岡会長の話で10地区でも違うというように、特に一色小は特徴が

	<p>あるところなので、共通性という話がある一方でどう特徴を持たせるか、これから考えないといけない。一色小のコミュニティ・スクール或いは地域の特徴は何かを明確化することも一方で必要だと思う。</p>
<p>一色小</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1 であげた役割の明確化については、推進員は学校と地域の間に入っていて、地域のいろいろな団体の中に P T A も任意団体として入っている。コミュニティ・スクールとして、保護者の理解は欠かせず、これまでも情報提供や共有をしてきたつもりだったが、5月の P T A 運営委員会に行ったところ、保護者からいろいろな意見や質問があがった。例えば、地域の方からサポーターを募集することに関して、ちょっとした抵抗感のようなものがあり、これまでの情報提供が伝わっていなかったと思う部分もあった。保護者にはまだコミュニティ・スクールがどのように運営されていて、どのようにサポーターが活動しているか見えていなかった部分もあったことは、真摯に受けとめて、今後は、より見える化を図っていききたい。 ・既存の活動等の位置付けについては、例えば校外安全部会で、P T A の旗振りの場所や時間を地図上で見える化できるようにした。その場所・時間と地域の方々の活動等のすり合わせができつつあるので、その上で、どうしていくのがよいかという話し合いを続けられるようになってきた。P T A の旗振り当番の見守りのやり方と、地域の方の見守りの目線や方法にややずれがあるので、地域の方々が無理なく、ただポイントは押さえていただけるようなやり方をお互いできるよということ、配布資料のような情報も共有しながらやっている。 ・学び交流部会については、児童の校内外における学習活動支援として定例活動になっているものがほとんどで、入学式飾りは高齢者介護施設のききょう苑さんが飾りに使う材料を作ってくださり、スマイル工作隊などの工作好きな方々や保護者が集まり飾り付けをするといったコラボができています。 ・授業サポートについては、先生方から直接依頼をいただけるようになっていたので、依頼内容に応じた方々に入らせていただいている。畑では、去年までは地域の詳しい方が栽培スケジュールも書いていたが、今年は畑に注力できる先生がいるのでお任せし、非常に充実している。足りない苗などがあれば、いつでも提供できるような準備をしているという意味疎通を図っている。 ・カブトムシの活動は2年目を迎え、今年も地域の方から 100～200 匹近くのカブトムシの幼虫をいただき、カブトムシ小屋で育てて成虫になったら友情の山に放つという循環ができつつある。 ・1年生の I C T 支援や高学年の家庭科のソーイング・調理実習は、人手があった方がいいということでサポートしている。 ・水泳の授業では、低学年でお着替えサポートがほしいという声があったので、行う予定である。 ・通年で、図工の教材準備、事前準備のために先生と同じものを揃えるなどしている。

- ・放課後の子どもの居場所づくりでは、放課後子ども教室こそ、様々な地域活動団体とのコラボを積極的に行える良い機会だと思っている。お囃子子供会の方や、アート教室をされている方、工作が得意な方、折り紙名人や昔遊び名人会の方など、様々な方に来ていただくことで、子どもたちは豊かで多様な人間関係を築けたり、遊びができたりしている。
- ・学童保育について、学童は学校とは別と考えがちだが、同じ子どもたちなので、学校の敷地内にあることもあり、先生方との情報共有、コミュニケーションが活発にできていると感じている。去年から学童の支援員をやり、現場を見る中で、限定的な視点に留まらず、多角的な面からフォローできると感じるので、良いコラボが生まれたらいいなと思う。
- ・学校環境部会については、環境美化ということで、ちょこっとお掃除サポートを引き続き行っている。学期末の大掃除のサポートの呼びかけを推進員からする予定。一色スマイルネットとして、保護者にも地域の方にも同じようにお知らせを出す。
- ・友情の山や池を中心とした環境保全活動では、友情の山の梅もぎが一色小の伝統行事で、今年は雨で日程がずれたので小規模での実施にとどまったが、6年生は自分たちの梅干を漬けるための梅もぎはできた。おやじの会や学校環境部会の方で剪定だけでもできたのでよかった。
- ・友情の山の整備について、7月16日に枝がら工法を使った整備を、生物多様性ネットワークの専門家を講師にお呼びして行うことになっている。配布資料の「友情の山を元気にしよう大作戦」というもので、5月頃から呼びかけ始め、子どもたちには、朝の会や授業の前に、生物多様性という言葉を噛み砕きながら、「友情の山は大事な山で、これからも大事にしたいよね。今ちょっと友情の山の健康状態があまり良くないみたいで、元気にするにはどうしたらいいかというのを教えてもらったんだよ」などと、プリントや紙芝居を使って話をした。またコンテナを置いて、子どもたちが落ち葉を集めてくるシステムを作り、盛り上げているところ。
- ・サポーター活動の募集は、保護者へ周知していくということを引き続きやっていく。
- ・「一色笑(スマイル)ネット 地域学校協働活動について」という先生向けのプリントを作成して、これまで口頭ではコミュニケーションを取っていたが、初の試みとして文書でお願いしてみた。6月頃に先生方から回答をいただき、いろいろなニーズがあることを把握できた。これをもとに、内容に応じた時期にタイミングを計りながら、先生方と話していきたい。
- ・資料に「学校林に使用した森林環境教育促進事業助成金の活用」とあるが、友情の山を維持管理するために学校の予算だけではできないところをこの助成金を活用して、枝がら工法を含め、いろいろな取組を行っていく。
- ・放課後や休日の子どもの居場所づくりの一環で、子ども食堂さんの朝ご飯キャンペーンを引き続き行っている。一色小は6月の時点では、41人の子どもたちが朝ご飯

	<p>を食べた。各月で夕食の子ども食堂や0円ショップ等も行われており、地域の方々の目線もありがたい。今後、頻度をどう上げていくか、今後の課題だと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の納涼祭が復活し、今までは地域の方々にやっていたが、今回子供会が入り、子どもたち目線の納涼祭として、かなり内容が変わった。今後も子どもたちがやりたい納涼祭の形にできるとよい。 ・3月にプレーパークを長畑公園で行った。これを継続するためには、地域の理解が欠かせない。地域の方々と話しながら、一緒に作っていくということをやりたい、理解がだんだん進んできたと感じている。子どもたちが学区によらず、いろいろな地域でプレーパークを楽しめる状態になっていくとよい。 ・課題3については、放課後子ども教室やその周りなど、できることから、なるべく関連性、整合性を持たせていけたらよいと思う。
一色小	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が6年目ということで、いろいろなことが定着してきている。初めのうちは、とりあえずやってみようという思いつきの中でやってきたことが、学校運営協議会としての役割を考えながら行っていく、というところに到達してきている。 ・様々なことをやっているように見えるが、学校にとってみると特別なことをやっているわけではなく、普段の学校生活の中に本当にいい具合にサポートしていただいている。何か特別なイベントをやろうということよりも、このような形が今後継続可能、持続可能な取り組みに繋がっていくのではないかなと思う。 ・一色小は教員の人数が少なく、プールでのお着替えサポートも本当に困ってお願いをしているが、ただ人数が足りないからとか、先生たちが大変だから助けてもらうということだけでなく、地域の方が一緒に入ってやっていくことが、子どもたちの豊かな学びに繋がっているということをいつも校内で話している。先生だけでもできるかもしれないけど、地域の方にも声をかけながら一緒にやっていくことが、コミュニティ・スクールとして大事だという意識が、教員の中にだいぶ根付いていきていると感じているので、今後も持続していきたい。
山西小	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り部会については、登下校の見守り。PTAの旗振り当番との調整が必要。地区によっては大変という声がある。地域の方で見守りをしてくださる方がいるので調整出来たらと思うが、自発的にやっているの曜日で割り当てをするのは違うかなと思う。保護者の思いと地域の考えをすり合わせながら、子どもたちの安全を守るにはどうしたら良いかを引き続き検討していく。回覧板で募集したら新たに協力いただける方が見つかったとのことなので、そうやって裾野を広げながら良い形を検討していく。 ・環境部会については、中庭の整備。教育活動と連携していけたらいいと思うが、今すぐは難しいので、他校の活動を参考にしていきながら引き続き維持管理をしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他として、コロナ禍で地域の活動がなく、地域の方と触れ合うことが限られていた。自分自身もできるだけ顔を出し、地域の方と知り合いになりながら、地域の方と協力してやっていきたいと思う。また、新たにやろうというのは大変なので、既存の活動を活性化させる中で、メンバーが調整役になってそれぞれが相互作用で活性化させる方がやりやすいのかなと考えている。
山西小	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援について、5月初旬に、先生方のニーズを把握するためにアンケートをした。どの教科で何時間くらい、どんな人材が必要かを答えてもらった。 ・6月25日、大磯警察署生活安全課による5年生の情報モラルの授業や葛川をきれいにする会による2年生の生き物についての授業、5年生マット運動の補助、地域の勉強ということで太鼓や昔遊び、家庭科のミシンの補助など、一通り人材を探し終えた。今後もニーズを聞きながらセッティングしていきたいと思う。 ・放課後子ども教室について、登録者が多く、第1回は154名、第2回は180名近くになった。子どもたちは、楽しい時間でとてもエネルギーが有り余っている。だが、サポーターの数や安全面において大変だなと感じたので、より良い形を探していきたい。自然塾の方、昔遊びの方、ラビッツの方からサポートをいただきながらやっている。山西小は自由遊びを大事にしながら、異年齢の子たちとの交流をしている。しかし、安全面では躊躇する部分があるので、それが課題である。サポーターを募ることを考えながら、より良い形を検討していこうと思う。
二宮中	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度3月のマルシェへの参加報告について（当日配布資料） 全部で7チーム参加。印象的だったこととして、子どもたちに地域を知ってもらいたいと思い参加したが、地域の方から「子どもが今度中学校へ進学するのですが、先生が見に来てくれるというのが安心しました」、「今の子っていい子なのね」という声をいただいたので、相互作用があったと感じた。 ・寄付については、地域を見るために寄付ということを設けた。子どもたちからは好印象で、学校に対してもっとこうしたかった、町にも寄付したかったという声があった。図書館に寄付した子もいた。どこに寄付したらよいか分からないながらもよく触れ合う所にしてくれたと思う。ただ寄付の額が50%は大きすぎるという声もあった。 ・どうしたら楽しんで、寄付もできるか、また自分たちも受け取れるのかを次回に生かしたいという声があった。 ・次回は、10月1日に開催のスポーツ協会のイベントに声を掛けていただいたので、西中さんを誘い参加しようと思う。
二宮中	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から3つの部会を立ち上げた。昨年度は、会長、推進員、校長先生を中心に進めていったが、今年度は部会に担当リーダーと先生たちが直接話し合い、誰かが欠けても活動していけるようにしている。 ・学習支援については、今年度からテスト期間の2週間前から活動することにした。

	<p>参加状況は、部活動がある日も15～20名、平均27名参加し、多い日は53名参加。支援者は前年より1名増えた。1週間前からは先生も入るが、それより前は支援者だけで実施している状況。子どもたちの学びに役立っているのか、先生の負担軽減になっているのかなどは今後話し合っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境整備については、修繕と防災の2軸。柱のカバーが劣化しているところを張り替えた。年末年始頃に保護者や地域の方々に声を掛けようと思う。 ・防災活動については、12月に地域の方と2年生の子どもたちがパネルディスカッションを行う。 ・9月8日、学校運営協議会委員を対象に、授業参観、防災倉庫の見学、修繕箇所を見ていただく予定。二宮小学校と一色小学校の方へ案内を出すので、ぜひご参加いただきたい。 ・11月14日、地区長と民生委員を対象に、校内見学、授業参観の予定で、少しずつ地域と関わっていき、お互いの視界に入っていくような緩やかな関係を築けたらよいと思う。 ・地域の活動については、10月1日スポーツフェスティバルのマルシェに参加、3月2日はらっぱマルシェに参加予定。 ・夏休みの放課後子ども教室のサポートとして美術部や吹奏楽部に協力してもらいながら参加する予定。
その他意見など	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付について、今回人件費はなしだったが、経済を考えると人件費も考えるべきではないか。人件費も考えるのも面白いと思う。 ・防災において中学生として何ができるのか、その学びの結果が、町の防災方針に影響を与えたら面白いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生から中学3年生を対象にしたアンケートの結果で、「人の役に立ちたいと思いますか」という質問に対して、小中ともに95%肯定的な思いを持っており、学校の教育活動の中で、そういった思いを実現できるような機会は作っているが、マルシェの取り組みは、まさに子どもたちの思いを実現できる機会が保証されている場だと感じた。教育課程だけではなく、いろいろな活動を作ってくださりありがたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど、ストーリーと言った話の背景として、中学校家庭科の授業での赤ちゃんボランティアの話があり、通常ならお母さんが赤ちゃんを連れてきて抱っこさせてもらい終わりになるが、再度3月に同じ赤ちゃんを連れてきてもらい、苦労した話や大きくなった話などをしてもらおうと、あの時の赤ちゃんがこんなに成長したんだというストーリーが生まれる。いろいろなことを繋げていくことでより身に染みてもっと深い学びになるだろうと思う。少しだけアジャストすれば、いい結果になるのではないかと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでは点で終わってしまうが、学校運営協議会が関わることで線になる。例えば、1年生でチューリップを育てる際に、1回花を咲かせたとして、次年度以降その球根は授業としては取り上げられないので、忘れ去られ、植えたところは荒れてしまう。でも、その球根を次の年に結びつけることをこちらがやれば、あの時の球根がまた咲いたんだねと繋がっていく。本当に小さいことを一つ一つ、先生方がやりきれないところをこちらで繋いでいくこともできると思う。また、生き物探しや観察の際、子どもたちは葉っぱをむしるように取ってしまうが、自然観察の専門家に話を伺うと、葉っぱの取り方があり、こうすると植物も枯れずに済むし優しい取り方なんだよと話すことで、活動に厚みが増す。友情の山の整備の仕方は、林業の手入れの仕方と基本は一緒なので、5年生で学習する林業のことと友情の山を結びつけるなど、そのような広がりを持たせることができるので、やはりコミュニティ・スクールは、すごく可能性があると思う。こちらがそういうことをちょっと意識しながら、活動に結びつけられたらよいと思っている。
6 閉会	